

病気と闘う子供たちにとって最大の良薬は  
両親の明るい笑顔ではないでしょうか

『笑いは痛みを軽くする麻酔作用を持ち、  
笑いは生きようとする意志を統合する  
表現だ』とアメリカの医師レイモンド・  
ムーディ氏は言います。ユーモアと笑顔。  
精一杯のあなたのほほえみで子供を応援し  
親子ともに頑張りましょう。

### 《第3回 ほほえみの会》

9月10日に行われたほほえみの会には7人の新会員を含む約  
20人が出席、大久保先生、服部先生、鈴木婦長も出席してくだ  
さいました。

#### 会報の発行

出席できなかった方に会での話の内容をまとめ、次回開催日をお  
知らせするために、今回から会報を発行することにしました。

当分、池田が担当します。

また郵送の際、会の名前より個人の名前の方がいいという意見が  
あり、会員の了承もありましたのでそのようにします。

#### 協賛金について

ほほえみの会に対して医薬品メーカーが協賛金を出してくださる  
かもしれないと三間屋先生からお話があり、受け入れについて計  
ったところみなさん異議はなく、ありがたく協力していただくこ  
とにします。依頼文書は先生と共同で作成します。

#### 会員の近況

今回特に話題となったのが患者の兄弟の問題でした。  
「いま子供は外泊中だが、入院して以来どうしても  
その子中心の生活になってしまう。お姉ちゃんには

よく話しているつもりだが精神状態がよくない。  
お姉ちゃんが心配だ。」とのことでした。

この他にも

「面会中ボランティアで面倒を見てくれる人は  
いないだろうか」

「土日休みでますます大変になる」

「兄弟がぐれてしまった子がいると聞いたことがある」

「他の兄弟のことは誰も助けてくれない」

などの意見が出され、みなさん悩んでいる様子が見られました。  
そして、病院内に兄弟の子供たちが遊ぶスペースがほしいという  
要望がありました。

これに対し、大久保先生から

「病院にはケースワーカーもあり兄弟が心の面で不安定になったら  
遠慮なく相談してもらいたい」

また鈴木婦長からも、病院としても悩みのタネで今までも内部で  
議論してきたことが伝えられ、

「面会に来た兄弟と合わせてあげたいが、やはりどうしても外から  
の感染が怖い。特に血液科の患者の場合、命に関わることがある  
ので理解してほしい」という話がありました。

この問題についてはほほえみの会として

1 患者の兄弟が遊べる場が病院内にほしい

2 その子達の面倒を見るボランティアの呼びかけをお願いする

この2点を代表から病院へ要望することにします。

尚、鈴木婦長からほほえみの会開催時には会場となっている慢性  
疾患室の向かいにある療育相談室を利用できるよう病院と話をし  
てくださることになりました。

了解が出たら会員交代で子供達の面倒を見てもいいと思います。

この他、大きい子供の告知の問題や退院時の心の不安などの声  
が出ました。

次回 ほほえみの会は

10月8日(日) 12時